

教会の歴史を 訪ねて 118



姫路伝道所

望みを抱いて喜び、 患難に耐え、常に祈れ。

人には生い立ちがあるように、伝道所にもそれぞれ固有の生い立ちがあります。姫路伝道所の開設は1970年3月、近畿中会によって承認されました。以来45年の歴史を歩んできました。姫路の伝道は旧日基の時代に始められ、1908年(明治42年)に講義所開設、主任者は岡部久牧師でした。1913年(大正2年)には伝道教会となり、1941年(昭和16年)日本基督教団によって姫路城西教会と改称され、1943年(昭和18年)4月には主任者として宮庄創牧師を迎えました。その2ヵ月後、姫路城西教会の建物は戦時下非常体制の方針で軍部に接收され、やむなく教会員藤原兄宅の離れ家が礼拝所兼牧師館となりました。1944年(昭和19年)5月には宮庄牧師は陸軍に応召され、1945年(昭和20年)6月22日と7月3日、姫路は大空襲を受けました。集会所は被災し、主任者は応召されたまま、会員も離散し、教会活動は一時不能となりました。日本基督教団では加西市にある飯盛野教会岩塚富次郎牧師に姫路城西教会の兼牧を委託し、小松姉宅で少数の会員が礼拝奉仕を続けておりました。戦後になって1948年(昭和23年)、日本基督教団兵庫教区は空襲で被災した諸教会の再建、統合、整理をすすめ、姫路城西教会は解散閉鎖となりました。

その時、飯盛野教会牧師と青年たちが教会の備品用具の整理のために協力奉仕されました。解散の祈りをささげた小松姉が、姫路城西教会が主のみ心によって再建される日の来ることを切々と祈られました。その祈りにうたれたのが吉田完次(加西伝道の開拓者・牧師)でした。吉田牧師はその祈りを継承して、姫路に日本キリスト教会が建設されることを

心から願っておられました。姫路伝道所が今日あるのは、この祈りがあってこそと言っても過言ではありません。

1951年新日本キリスト教会が設立され、近畿中会は姫路伝道を調査し、その結果、中会伝道局は神戸湊西教会(牧師田中豁)、明石大久保教会(牧師檜山聰)、加西伝道所(牧師吉田完次)の三教会に対して姫路の伝道に協力を求め、兵庫地区の諸教会がこれを支援することによって姫路伝道所が開設されました。歴代の主任者は福井重蔵牧師(在任4年)、栗川富雄牧師(同7年)、吉田完次牧師(同7年)、藤田浩喜牧師(同8年)、野村昌男牧師(同6年)、千谷裕子牧師(同1年)、田中豁教師(応援12年)です。現会堂・土地は藤田浩喜牧師着任時に取得して今日に至っています。場所はJR姫路駅から南西部にあり、付近は一面田畑に囲まれ、伝道には辺鄙なところと言われていました。今日では姫路市内では唯一残された宅地開発の地となり、新住宅が建設されつつあります。

姫路伝道所の開設以来の目標・課題は姫路に自主独立の長老政治による告白教会を建てるということです。姫路市内にはプロテスタント教会は28教会を数えますが、日本基督教団は6、バプテスト系4、ルーテル系2、聖公会1、その他福音派系14です。長老制・改革教会の信仰に立つ教会はただ一つです。その課題を果たすために、中会伝道局の指導をはじめ、地区諸教会の支援と兄弟姉妹の祈りは大きな励みとなっています。もう一つの課題は、専任の主任者が与えられることです。千谷牧師後、12年間教師の応援によって支えられてきましたことは伝道者不足のおり感謝すべきことですが、専任の牧師が与えられることを待ち望んでいます。現在の教勢は現任陪餐会員8名、主日礼拝出席者数平均8名です。主日礼拝を守る場所が備えられ、ここで力ある御言葉が語られ、聴かれ、聖徒の交わりが深められていることは、何よりの喜びであります。

「希望を持って喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。」(ローマの信徒への手紙12章12節)の御言葉に励まされています。ご加禱をお願い致します。(姫路伝道所委員会)



2014年クリスマス